

知っておきたい！ “結核の知識”



お問い合わせ
保健福祉課 保健推進係 Tel 2・1212

結核は昭和 20 年代までは国内の死亡原因の第 1 位でしたが、医療や生活水準の向上により患者数は大きく減少し、ひと昔前の病気というイメージがあるかもしれません。

ところが、国内では現在でも年間約 2 万人の新しい結核患者が発生し、約 2 千人が結核で亡くなっており、時には集団感染が問題になるなど、決して過去の病気ではありません。（表 1）

（表 1）国内の結核患者状況（平成 26 年）

	新たに結核と診断され、登録された患者数	結核により死亡した人数
日本国内	19,615 人	2,100 人
北海道	588 人	74 人
紋別保健所管内 （遠軽・紋別地域）	10 人	1 人



結核予防模十字シル運動キャラクター
「シルぼつや」

結核は

どんな病気？



「結核菌」が体内に入り、主に肺に炎症を起こす感染症です。肺の他にもリンパ節、骨、関節、腎臓等で病巣がみられる場合もありますが、約 8 割は肺結核です。

結核にかかった人の咳やくしゃみと一緒に結核菌が空気中に飛び散り、それを周りの人が肺の奥まで吸い込む事により感染します。

通常は菌を吸いこんでも防御機能により体外に菌が排出されたり、体内に入っても菌に対抗する免疫の働きにより、菌の活動を抑え込み、発病せずに終わります。

感染しただけでは他の人に感染する事はありません。ですが、何らかの理由で免疫力が低下すると結核菌が増殖するおそれがあります。

感染した人が生涯のうちに発病するのは 10 人中 1 ～ 2 人程度と言われ、感染してから数年以上、長い場合には数十年以上経ってから発病する場合があります。

《結核の初期症状》



主な症状は？

初期の症状は、咳、痰、微熱、体のだるさ等で風邪とよく似ていますが、進行すると体重減少や息切れ、血痰等の症状がみられるようになります。進行してしまつと肺の組織の一部に空洞ができてしまい、菌がどんどん増殖し、周りの人への感染を広げてしまうおそれも出てきます。

「咳が2週間以上続く」、「いっただん良くなつても繰り返す」等の場合には、風邪以外の病気も疑い、早期に受診する事が大切です。

結核にかかり

やすい人は？

○高齢者

日本では結核患者の半数以上が70歳以上の高齢者です。若いうちに感染し、加齢などで免疫力が低下して発病するケースが考えられます。

○持病のある人

糖尿病で血糖値のコントロールが良くない人や腎臓病で人工透析療法を受けている人などは菌に対する抵抗力が弱まり、感染するリスクが高まります。

○乳幼児

免疫機能が未熟で感染や発病のリスクが高いため、1歳未満でBCG（定期予防接種）を接種し、感染を予防する事が重要です。



結核はどのように

治療するの？

3〜4種類の飲み薬を併用して結核菌を除去する事が治療の基本です。咳や痰の中の細菌量が多く他の人に感染させるおそれがある場合には入院治療となりますが、そうでなければ通院治療が可能です。

治療期間は6ヶ月〜9ヶ月が目安ですが、不規則に内服すると結核菌が薬に対する耐性（抵抗力）を持つ可能性があるため、医師の指示通りに内服する事が重要です。

結核を予防し、

早期発見するには？

結核菌に対抗する免疫力を保つためには規則的な睡眠・バランスのとれた食事・適度な運動・禁煙等、日頃から生活習慣に気をつける事が大切です。また、早期に肺の病変に気づくためには、職場の検診や町の肺がん検診などの胸部レントゲン検査でチェックを受ける事が大切です。



65歳以上の方は、

結核検診を

受けましょう!!

高齢者は結核の発病のリスクが高い一方で、咳や痰などの症状がはっきり出ない場合があります。

下記の予定で結核検診を実施しますので、自分自身の健康チェックのため、また、身近な家族や友人に感染を広げないためにも検診を受けましょう。

《結核検診のお知らせ》

☆対象者 65歳以上の方

☆日程 5月17日（火）〜20日（金）

☆検診費用…無料

※会場と時間は健康カレンダー（5月掲載）でご確認の上、直接会場にお越しください。

※定期的に呼吸器疾患で治療している方については、結核検診を受診する必要はありません。不明な点はかかりつけ医にご確認ください。

岡保健福祉課保健推進係

☎2・12・12



《結核に関する

詳しい情報は》

結核に関する詳しい情報は『公益財団法人結核予防会』ホームページへ

<http://www.jatahq.org/>

